

1. 製品及び会社情報

会社名：有限会社 パシフィック化学
 住所：〒170-0005 東京都豊島区南大塚 2-42-7
 電話：03-3986-1578 FAX：03-3971-2613
 作成/改正：2004年 1月 5日 / 2024年 2月 13日

整理番号 (PC-1000・18)
 製品名 **P & C**

2. 危険有害性の要約

— 単品成分記載 —

リグロイン：ラベル要素：



危険

GHS 分類	分類結果	危険有害性情報
引火性液体	区分 2	引火性の高い液体及び蒸気
皮膚腐食性/刺激性	区分 2	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	強い眼刺激
生殖毒性	区分 1B	生殖能または胎児への悪影響のおそれ
特定標的臓器/全身毒性(単回投与)	区分 1	呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓の障害
特定標的臓器/全身毒性(単回投与)	区分 3	眠気又はめまいのおそれ
特定標的臓器/全身毒性(反復投与)	区分 1	長期または反復暴露による呼吸器、神経系の障害
吸引力呼吸器有害性	区分 2	飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ
水性毒性	区分 2	水性生物に毒性

ジエチレングリコールジメチルエーテル：



警告

別名：ビス(2-メトキシエチル)エーテル/1, 1'-オキシビス(2-メトキシエタン)/2, 5, 8-トリオキサナン

GHS 分類	分類結果	危険有害性情報
引火性液体	区分 3	引火性液体及び蒸気
生殖毒性	区分 2	生殖能または胎児への悪影響のおそれ
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 2B	眼刺激

3. 組成及び成分情報

— 混合物 —

化学名	CAS No.	国連番号	含有量	PRTR 法
リグロイン	8032-32-4	1268	40%~50%	第三種有機溶剤
ジエチレングリコール				
ジメチルエーテル	111-96-6		30%~40%	非該当
活性剤(PFOS、PFOA 非該当)			15%	非該当
国連分類			: クラス 3. 3H	
労働安全衛生法(通知対象物質)			: 該当なし	
化学物質管理促進法(第一種及び第二指定化学物質)			: 該当なし	
毒物及び劇物取締法			: 該当なし	

4. 応急措置

— 製品 —

- 目に入った場合：直ちに流水で 15 分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付いた場合：石鹼を使って大量の水で洗い流す。
- 大量に吸収した場合：直ちに被災者を空気の新鮮な場所に移し、安静に努める。その後医師の手当てを受ける。
- 誤飲した場合：水でよく口を洗わせる。無理に吐き出させない。直ちに医師の手当てを受ける。意識がない場合、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

— 製品 —

- 消火方法：火元への燃焼元を断ち 消火する。
 棒状水の使用は、火災が拡大し、危険な場合がある
 消火作業の際は、風上から行ない必ず保護具を着用する。
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 適切な消化剤：粉末、炭酸ガス、泡末、砂
- 使ってはならない消火剤：棒状放水

6. 漏出時の措置

—製品—

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- : 漏洩区域は、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 漏洩エリア内に立ち入るときは、保護具を着用する。
- 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸引しない。
- 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
- 密閉された場所に立ち入るときは、事前に換気する。

環境に対する注意事項:

- 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
- 油又は有害液体物資による海洋の汚染の防止のため、海上で薬剤を使用する場合は、国土交通省令・環境省の規定に適合すること。
- 環境への排出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- : 危険でなければ漏れを止める。
- 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は設置する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

—製品—

技術的対策: 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。

安全取扱注意事項:

- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
- 換気の良い場所でのみ使用する。
- 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- 取扱い後はよく手を洗う。

接触回避:

- 炎、火花または高温体との接触を避ける。

保管:

- 直射日光、火気を避け密栓し、換気の良い冷暗所に保管する。

容器包装材料:

- ガラスなど。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 500 ppm

許容濃度: 日本産業衛生学会勧告値 (1991) 300 ppm

ACGIH (1991) TWA 500 ppm

設備対策: 使用後は直ちにキャップを閉める。又は局所排気装置を設置する。

保護具: 状況に応じ有機ガス用防毒マスク、保護眼鏡、保護手袋等を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

—製品—

物理状態: 液体

色: 淡い黄色液体

臭い: 温和な臭い

融点/凝固点: データなし

沸点又は初留点及び沸点範囲: 75~120°C 75°C (初留点)

可燃性: 引火性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: 下限 1% 上限 7%

引火点: -15°C

自然発火点: データなし

分解温度: データなし

PH: 7

動粘性率: データなし

溶解度: 水; 不溶

n-オクタール/水分配係数: データなし

蒸気圧: 12 mm Hg (20°C)

密度及び/又は相対密度: データなし

相対ガス密度: データなし

粒子特性: データなし

10. 安定性及び反応性 —製品—
- 反応性： 安定
 化学的安定性： 安定
 危険有害反応可能性： 強酸化剤と混触すると、発熱、発火する。
 ハロゲン類、強酸、アルカリ性物質と混触すると反応することがある。
 多くのプラスチック、ゴムを侵す。
 避けるべき条件： 高温、日光、裸火、スパーク、静電気、その他発火源。
 混触危険物質： 酸化剤、ハロゲン類、強酸、アルカリ性物質
 危険有害な分解生成物： 火災などの熱分解で、一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。
11. 有害性情報
- 急性毒性： 経口毒性： 900 mg/m³
 皮膚腐食性/刺激性： 皮膚 粘膜を刺激する。
 目に対する重篤な損傷性： 強い眼刺激
 呼吸器感作性又は皮膚感作性： 皮膚刺激性。吸収すると、窒息を起こすことがある。
 生殖細胞変異原性： 現在知見なし
 発がん性： 現在知見なし
 生殖毒性： 現在知見なし
 特定標的臓器毒性(単回ばく露)： ヒトで大量に経口摂取又は高濃度での吸入ばく露により、肺炎を生じた。また、人に対して吸入ばく露で昏眠、麻酔性がある。肺、腎臓の障害。眠気、又はめまいのおそれ。
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)： 長期又は反復ばく露による神経の障害、血管の障害のおそれ。
 誤えん有害性： 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
12. 環境影響情報
- 生態毒性： 水性環境有害性短期(急性) 水性生物に非常に強い毒性
 残留性・分解性： 良分解性
 生態蓄積性： 低濃縮性
 土壌中の移動性： 現在知見なし
 オゾン層への有害性： 分類できない。
 魚毒性： 現在知見なし
 分配係数： 現在知見なし
13. 廃棄上の注意
- 残余廃棄物： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って破棄する。
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
 本製品を含む廃液及び洗浄廃水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
 汚染容器及び包装： 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
 空容器を処分する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
14. 輸送上の注意
- 緊急時応急処置指針番号： 128
 国際規則
 国連番号： 1268
 品名： 石油蒸留物
 国連分類： 3
 容器等級： II
 国内規制： 陸上規制情報(消防法、道路法の規定に従う)
 海上規制情報(船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)
 航空規制情報(航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

15. 適用法令

－製品－

労働安全衛生法：	危険物 引火性の物
有規則：	第三種有機溶剤
消防法：	第4類第3石油類 非水溶性液体 指定数量 2000ℓ 危険等級Ⅲ
毒物及び劇物取締法：	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則：	引火性液体
航空法：	引火性液体
水質汚濁防止法：	油分排出規制

16. その他の情報

引用文献等

- | | | |
|--------------|---|---------------|
| ① 化学工業日報社 | ： | 12000 の化学商品 |
| ② 中央労働災害防止協会 | ： | 有機溶剤作業主任者テキスト |
| ③ 有機化合物事典 | ： | 朝倉書店 |
| ④ 製品評価技術基盤機構 | | |
| ⑤ 安全衛生情報センター | | |

販売商品仕様書

特定品の場合の名称	消防法 火気厳禁	労安法 表示義務なし
容器形態及び材質	1ℓ 缶×12 本入 18ℓ 缶	
保管取扱の注意事項	① 印刷技術者以外の使用は、避けて下さい。特に幼児の手の届かない所に保管して下さい。 ② キャップを開ける時 液が飛び出す事が有るので充分注意して下さい。絶対に目や口に入れないで下さい。 ③ 作業所は、換気を十分行なって下さい。 ④ 液が皮膚に付いた時は、直ちに流水で洗い流して下さい。使用後は、キャップを必ずして下さい。	

* 記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価について完全性を保証するものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。ご使用者の責任において安全対策を実施の上お取り扱い願います。